

所報

第64号

# 特別支援教育

福島県養護教育センター

## 国の動向とこれからの取り組みに向けて

福島県養護教育センター 所長 円谷美智子

現在、内閣府では、国際連合による障害者権利条約の批准のため、国内法づくりを行っており、その一つとして、平成23年8月に障害者基本法が一部改正されました。

改正された障害者基本法では、教育について「可能な限り、障害者である児童及び生徒が障害者でない児童生徒と共に教育を受けられるよう配慮しつつ」と規定され、障がいのある子どももいない子どもも共に学ぶというインクルーシブ教育が示されております。「可能な限り」の文言が入ったことは、中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会文科省特別支援教育に関する特別委員会の論点整理等も参考とし、法案が審議された経緯があります。

そして、今年2月には、特別支援教育に関する特別委員会の下に設置された合理的配慮等環境整備検討ワーキンググループから、学校における「合理的配慮」の観点について試案が出され、教育的内容・方法、支援体制、施設・設備等が具体的に示されました。障がいのある子どもたちの教育が一層充実するように、学校や指導者は、さらに特別支援教育に関する専門性を身につけ、一人一人のニーズに応じた教育を提供していくこととなります。

こうした国の施策動向を見据えながら、県内の各学校等においては、校長（所属長）のリーダーシップの下、「地域で共に学び、共に生きる教育」の実現に向けて、特別支援学校のセンター的機能を活用すると共に関係機関とのネットワーク構築に努められております。校内支援体制についても担任、担当者に任せるのではなく、校内全体で支援していくという支援体制が拡がり、交流及び共同学習も積極的に行われてきております。今後ますます、校長のリーダーシップの下、インクルーシブ教育システムの構築に向けての実践が期待されます。

当センターとしても、福島県における中核的役割を果たしていくために、国の動向や先進的な実践を紹介すると共に、研修事業や教育相談事業と共に調査・研究等により、特別支援教育の充実・発展に寄与していかねばなりません。今年度は、東日本大震災等による対応事業を新たな事業として、自主研修講座の講座数を拡大、Webページによる『今日からできる！特別支援教育』の開設、そして、学校・地域支援を重点的に行ってきましたが、これまでの実践や成果をさらに発展させ、多くの学校や地域が一体となって取り組んでいけるように、地域の人材育成と教職員の特別支援教育の専門性向上に取り組んでいく所存です。

また、かねてより議論されていた障害者自立支援法廃止後の障害者総合福祉法へのつなぎ法案が施行されることになりましたので、こうした動向も見据えながら、福島県における特別支援教育の中核的役割を果たしていきたいと思っております。



## 平成23年度 研修の報告

### 研修の実際

平成23年度の研修については、震災の影響で、基本研修を除いて、年度当初計画した各種研修講座を中止しましたが、職能研修、専門研修に460名の先生方の参加をいただきました。特別支援教育コーディネーターや授業づくりに関する研修を中止し、児童生徒の理解や保護者支援に関する研修を中心に実施しました。受講されている先生方の様子から、研修に対する真摯な姿勢を感じとることができました。

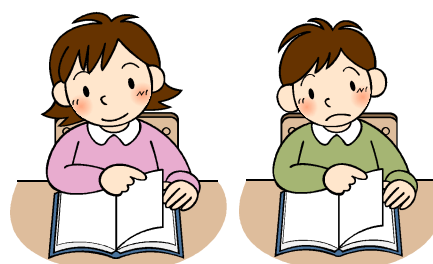
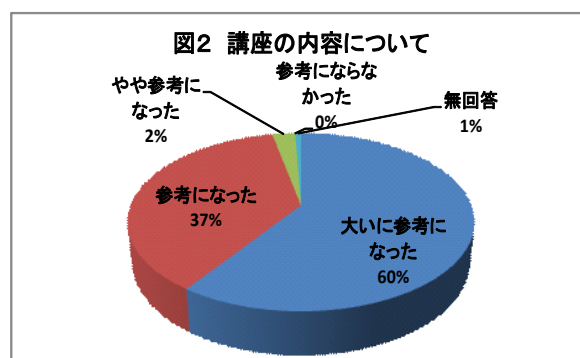
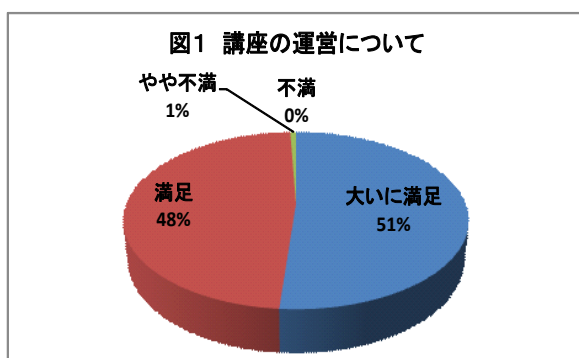
また、余震や交通機関の復旧状況を踏まえて、6月から自主研修講座を20講座を土曜日を中心に開講しました。県内各地より427名の受講申し込みがありました。

平成23年度本センター研修講座受講者数

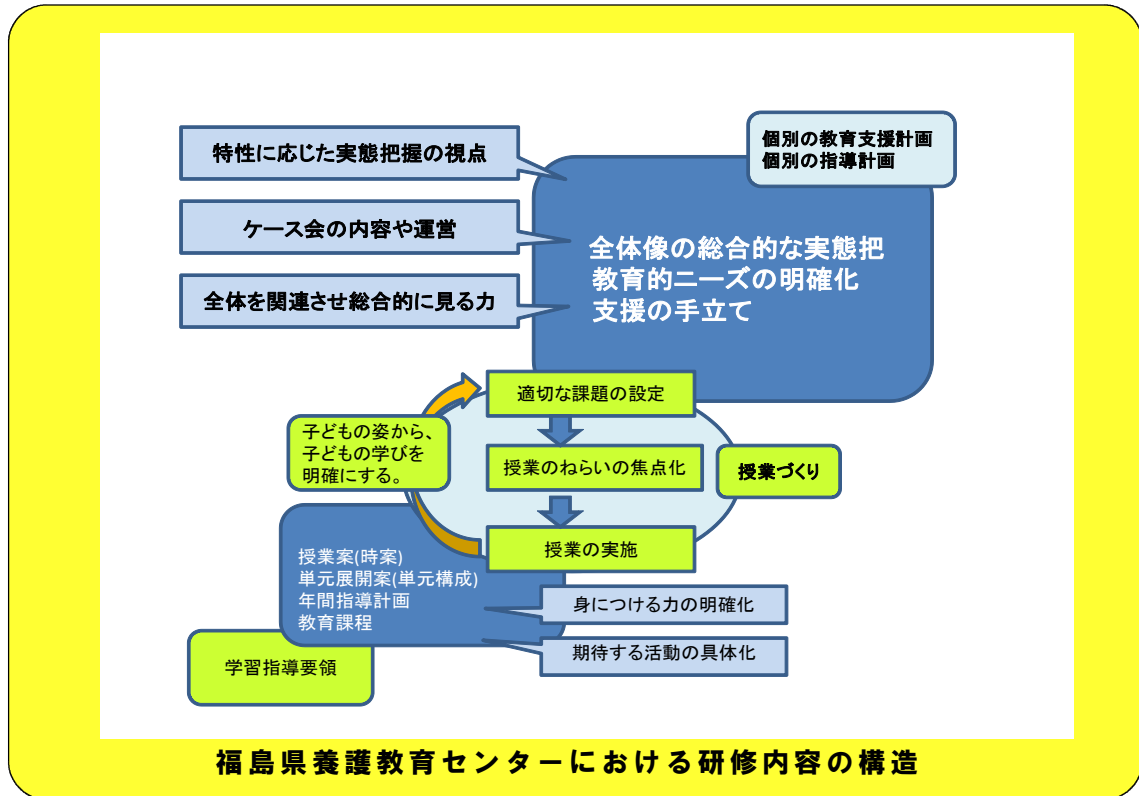
基本研修					職能研修	専門研修	合計	
初任研	48	経験Ⅰ	21	経験Ⅱ	29	208	154	460
※自主研修講座 427								

### 受講者のアンケートより

専門研修講座の運営については、大いに満足が51%、満足が48%、やや不満は1%でした。研修内容については、大いに参考になったは60%、参考になったは37%、やや参考になったは2%でした。この結果から、運営面、研修内容ともに、研修者のニーズに応えることができたと考えます。



下の図に示したように、本年度は子どもの全体像を把握し、教育的ニーズを明らかにすることに重点を置いて研修を実施しました。実際に役に立つと思われる研修形態として、多くの受講者が演習形式をあげています。子どもの行動から、その時の子どもの思いや考えを読み取り、学びを形作っていけることを目標に、演習を通して受講者が気づきを実感できるよう講座を準備してきたことからもうなずける結果です。



## 公開講座

今年度の公開講座は、1講座のみでした。受講者および公開講座参加者54名が、講義を受講しました。

### テーマ「子どもの全体像を総合的に理解するために必要な教員の専門性」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

企画部総括研究員 長沼俊夫 氏



子どもと向き合った際に、「あれ?」、「おや?」と思ったときには考えていたこと(仮説)を考え直し、これまでの知識や経験を駆使しながら、新たに思考し直す『ダブルループ学習』を紹介していただきました。このダブルループ学習ができるようになることがベテランになる条件のひとつのようです。

## 自主研修講座

今年度は、土曜日等を実施する研修講座を20講座開催しました。

### 〈自主研修講座の様子〉

No.	実施日	曜日	時間	講義名
1	5月28日	土	9:30~12:00	ストレスマネジメント教育の実際①
2	6月11日	土	9:30~12:00	特別支援学級担任講座①
3	6月25日	土	9:30~12:00	学級(集団)づくり①
4	7月16日	土	9:30~12:00	ストレスマネジメント教育の実際②
5	8月5日	金	9:30~12:00	チャレンジ!ケース検討会①
6	8月6日	土	9:30~12:00	ニーズに応じた授業づくり①
7	8月6日	土	13:00~15:30	問題解決に向けたソーシャルスキル
8	8月17日	水	9:30~15:30	子どもの実態に応じた教材教具づくり
9	8月18日	木	9:30~15:30	特別支援学級担任講座②
10	8月27日	土	9:30~15:30	マスター!心理検査
11	10月1日	土	9:30~12:00	ストレスマネジメント教育の実際③
12	10月1日	土	13:00~15:30	学級(集団)づくり②
13	10月22日	土	9:30~12:00	総点検!特別支援教育の教育課程
14	10月22日	土	13:00~15:30	チャレンジ!ケース検討会②
15	11月5日	土	9:30~12:00	特別支援教育とキャリア教育
16	11月5日	土	13:00~15:30	ニーズに応じた授業づくり②
17	11月19日	土	9:30~12:00	自閉症の幼児児童生徒の理解
18	11月19日	土	13:00~15:30	重度障がい児童生徒の理解
19	12月3日	土	9:30~12:00	自己表現としてのコラージュアクティビティ
20	12月3日	土	13:00~15:30	話し合いを深めるワールドカフェ



ストレスマネジメント教育の実際



学級(集団)づくり②



重度障がい児童生徒の理解

### 自主研修講参加者の感想

- 「自己開示することで、他を受け入れる隙間ができる」という話は、とても心に残りました。(「学級(集団)づくり②」より)
- 子どもたちをリラックスさせるためには、まず指導者・支援者のリラックスが大切だということに気づきました。(「ストレスマネジメント教育の実際③」より)
- 学んだことをどのように生かしていくか、とても参考になりました。自分もリラックスできて、よかったです。(「ストレスマネジメント教育の実際③」より)
- 初めての特別支援学級担任ということで不安だらけでしたが、講義・協議を受け、少しずつ何をすべきかが見えてきました。(「ニーズに応じた授業づくり①」より)
- 一つのケースを様々な観点から検討することで、今後の対応策が見えてきました。(「チャレンジ!ケース検討会①」より)

# 平成23年度 教育相談の報告

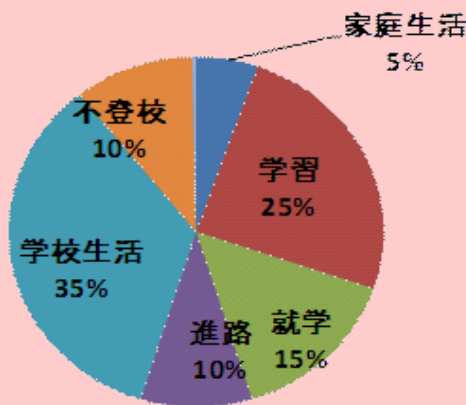
## 来所と電話相談

震災の影響からか、全体的に相談件数は減少し、特に震災直後は例年の半分程度でした。震災に関する相談内容では、震災を契機に状態が悪化したり目立つようになったものも多く見られました。

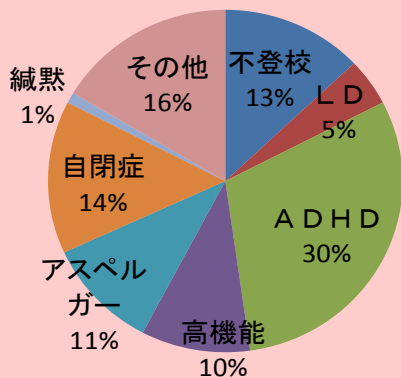
「以前から不登校気味だったのが完全に不登校になった」  
 「避難して転校したら不登校になった」  
 「放射能のことが気になって外出しなくなった」  
 「学校が合併したので落ち着かず問題行動が多くなった」  
 「避難先から戻りたいが同じような支援が受けられるか不安だ」

平成23年度相談件数

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実件数 (新規)	31	29	31	48	42	16	20	26	21	18	13	19	313
述件数	39	57	76	116	91	62	90	95	109	77	87	91	997



相談内容内訳



障がい種別相談の割合

障がい種別の割合では、情緒（発達障がいを含む）と知的で9割を占めており、通常の学級に在籍している児童生徒についての相談が多くなっています。

相談として全く初めてのケースはほとんどなく、学校や地域の相談機関での相談を受け、紹介されたケースが多くなっています。最近、関係専門機関（療育センター、支援センター、病院）から紹介されるケースも増えています。

連携した支援が上手くいくように、ツールとして「支援ファイル」や「個別の教育支援計画」の作成をすすめています。

# サポートシートの作成をすすめた相談事例

〇〇市のAくんは、来年幼稚園に入園する予定です。お母さんがAくんを連れて希望の幼稚園を訪れると、Aくんの様子を見た先生から、専門機関での相談をすすめられました。お母さんは、当センターの相談を希望して来所されました。

そこで、当センターでは、入園予定の幼稚園の先生や1歳からお世話になっている保健師さんと連携し、サポートファイルを作成しました。お母さんのこれまでの子育ての中から、Aくんの特性やかかわり方のコツが分かりました。また、相談の中で、これまで困っていた行動について良いかかわりが分かったものも記入していきました。サポートファイルを作っていくことで、お母さんや家族のAくんへの理解が深まり、良いかかわりが分かってきました。



このサポートシートを基に、幼稚園の先生と入園前に支援会議を行う予定です。幼稚園の先生もAくんを積極的に理解しようとしてくれています。

**くん理解シート (生活面)**

花嫁日【平成 年 月 日】  
花嫁番【 】

オッ月名前( )

**生活での様子**

★昼食や夜食・飲み物      ★排泄(おむつ・トイレ)

□夜間おしんこ   □なし   □あり

□寝食   □なし   □あり

★一人で食べることが出来る【□箸   □スプーン   □フォーク   □コップで飲む】

□手助けがあると食べることが出来る【□箸   □スプーン   □フォーク   □コップで飲む】

支援の方法

★全部手助けが必要【□従兄弟   □その他【 】】

★身体発達   □草食   □食中毒【□女   □中   □乳】   □運動発

★発達の遅延   □発達の遅延がある【□聴覚   □視覚   □後片付け】

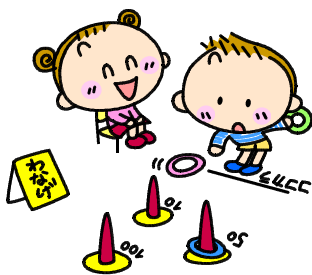
【夜間でお眠りしていること・おぼろげな寝ていること】

**全体の様子**

サイン・石物	手助けの方法
【要する時】	
ヘルプサイン	
【拒否する時】	
得意なこと・好きなこと	苦手なこと・嫌いなこと

保育園・幼稚園生活への思い・願い等 (記入)

支援シートの一部



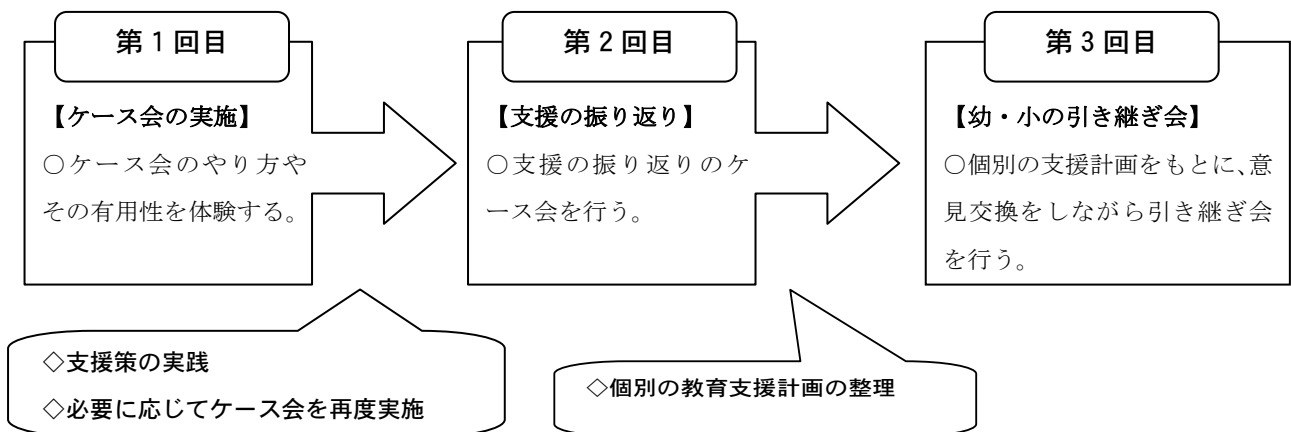
## A 幼稚園への支援

A 幼稚園に、子ども理解を深め個別の教育支援計画に活かせるケース会について研修したいという要請をもとに支援を行いました。

### 1 幼稚園支援の目的

- (1) 幼稚園内で個別の教育支援計画を作成し活用するためのケース会を、自分たちで実施できるようにすること。
- (2) 幼稚園と小学校の連携を密にし、気になる子の引き継ぎ会を実施することができるようにすること。

### 2 幼稚園支援計画



### 3 支援の経過

- (1) 第1回目 ケース会の実施

#### 【手順1：気になる子どもの行動を一つとりあげましょう。】

担任の先生から気になる子どもへの対応で困っていることを話してもらいました。困っていることを具体的にし、他の先生方とも悩みを共有しました。みんな、その子のことは気になっていたようで担任の先生の悩みについてよく理解してくれました。



#### 【手順2：子どもの具体的な行動について語りましょう。】

参加が難しかった運動会場面を取り上げました。練習や本番時の具体的な様子について、活発に話し合われました。「どのような活動ですか?」「その時の様子は?」等の質問も多く出され、運動会以外の場面についても多く語られました。

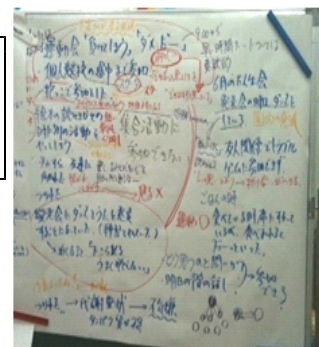


#### 【手順3：子どもの立場になって考えよう。】

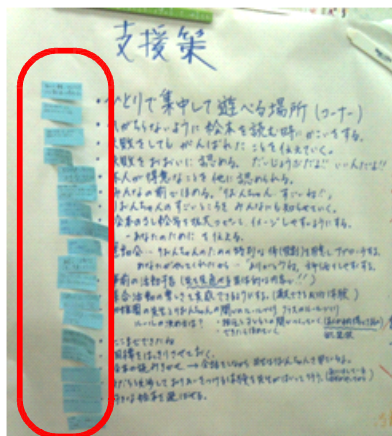
「子どもの立場になって、その子の気持ちや考えを推測する」ことには、やや戸惑いがあったようです。そこで、「例えば、この場面の時の本人の気持ちはどうだっただろう?」と視点を変えると、先生方から意見が活発に出されました。



【手順4：気になる子どもの背景や要因を推測しましょう。】  
 「どうしてこのような行動をしてしまうのだろうか？」と考えました。「負けてしまうのが悔しくてとび出してしまうのではないだろうか？」等の意見が活発になってきました。



手順1～4までの記録



支援策の記録

【手順5：支援策を考え、具体化しましょう。】

支援策は付箋に書きだし、一人一つは発表するようにし、発表後は拍手をするようにしました。支援策を考える前に、もう一度手順1～4までを振り返り、それに沿って考えるようにしました。先生方からは、具体的な支援策が次々と発表されました。

(2) 第2回目 支援の振り返り

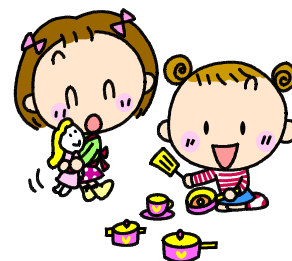
#### ◆担任の先生からの報告

今まで、参加が難しかった絵本の読み聞かせ（集団場面）でAさんの好きな本を題材にするようにしました。それを機会に、Aさんだけでなく他の園児にも好きな絵本を選択できるようなルールを設定しました。Aさんは自分で選ばなかった絵本の読み聞かせでも、参加ができるようになってきました。

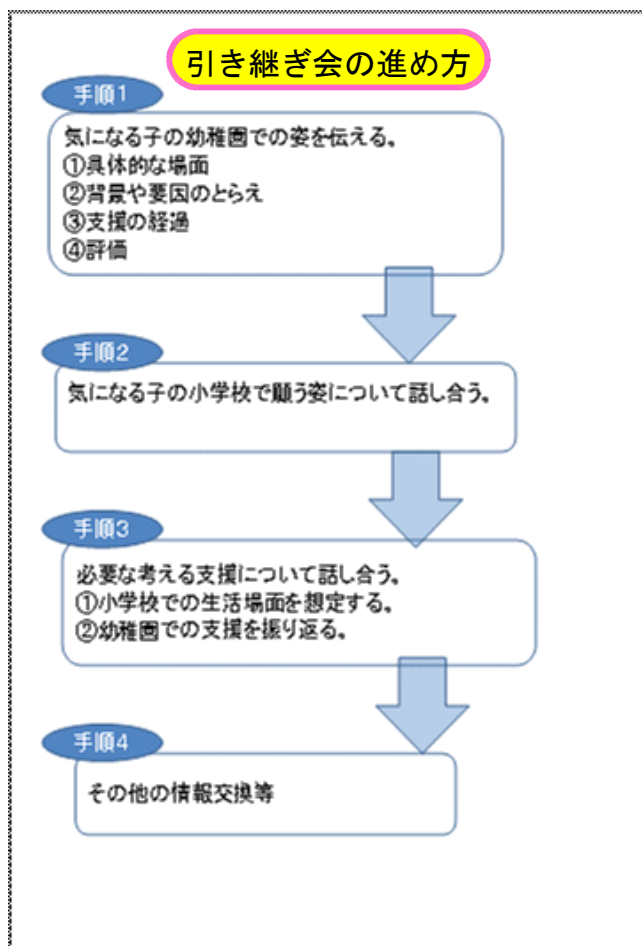
担任の先生の報告から、ケース会で話し合った支援策が有効であったことが確認されました。先生方からケース会の有効性を実感したと感想がありました。また、ケース会を機に先生方で相談し合える関係になったことも報告されました。

(3) 第3回目 小学校との引き継ぎ会

幼稚園からの報告で、幼稚園として伝えたい情報が多かったり、本児への思いが強かったりすると、小学校の先生の不安が強くなる傾向がありました。「こんなに、個別の配慮はできません。」「小学校では難しい。」等の声も聞かれました。しかし、一方で小学校の先生方から、「自分たちの不安を伝え、本音のやりとりができたことはよかった。」との感想もありました。







引き継ぎ会の進め方

〈引き継ぎ会の様子〉



#### 4 支援の評価

##### (1) ケース会について

幼稚園からのアンケートには、「自分だけが悩んでいたことが、みんな考えを聞くことで、新しい発見や『こうしてみようか』といった保育への意欲につながった。」等の記述が複数ありました。幼稚園内での先生方のつながりが深まり、保育への意欲につながったことはよかったですと考えます。また、第2回目の支援の振り返りで、話し合われた支援策が有効だったことを実感し、ケース会の有用性を経験してもらったことで、自分たちでケース会を実施しようとする動機付けになったようです。

課題としては、個別の教育支援計画に記述するまでに、情報を整理したり言語化したりする作業が難しいという意見が多く聞かれました。ケース会議に参加していない人たちとも、つなぐツールとして活用するするならば、わかりやすく言語化する作業が必要でした。

##### (2) 引き継ぎ会について

これまでの幼稚園のケース会に小学校の先生も参加していたこともあり、積極的に発言する姿がみられました。小学校で予想される困難について想像しながら、率直に自分ならどのように支援するかを考えることができたのがよかったと思います。

課題は、幼稚園の期待と小学校の不安を上手くコーディネートして会をすすめることです。幼稚園での支援について、小学校の不安をとりのぞきながらその有効性を伝えることがポイントです。センターでは、小学校の特別支援教育コーディネーターがこの役割を担えればと考えています。

# 震災「あの日(3・11)」から1年を振り返って

震災日から1年が経ちましたが、1年前の「あの日(3・11)」以降の様々な事態は、記憶から去ることなく、同時に消してはならないという思いを強くしています。

震災日から数ヶ月間は、県の方針への対応や避難所支援の対応に追われ、先の見えない仕事にあたらざるを得ない状況にありました。当然のことながら、事業の大幅な削減と震災復興に対応した事業の見直しを図らなければならない一方、非常事態に即応できるスピード感が求められている状況でもありました。

センターとしても、この非常事態の中で何かできることはないのかと、所内で検討しました。その結果、避難されている方々の多い県北・県中地区を中心に避難所巡回教育相談を全職員で分担して行うこととしました。特に障がいのある幼児児童生徒の相談や学校・学習への不安に関する相談等を主たる目的としましたが、実際には、想定した目的とは大きくかけ離れ、避難された方の恐怖心や不安感等を一方的に聞くだけの対応で終始してしまいました。しかし、この一方的に受け止める相談が如何に避難された方々の安心・安定をもたらすことにつながったのか、各報告の中から、その重要性が見えてきました。避難された方から、「聞いてくれて、ありがとう。」という感謝のことばの裏に、原発事故という明るさの見えない未来に対する辛さも同時に感じさせられた思いでした。

今、改めて振り返ってみますと、後世に語られる貴重な資料になっていると考えています。また、こうした非常事態の中で、当センターが長年築き上げてきた「相手の心に寄り添う」相談機能を活かしたことは、意義のある判断と行動であったと確信しています。

5月末まで続いた避難所支援への対応、震災後の状況に対応した本来の事業推進にあたっては、まさに職員一人一人の「絆」の精神と全員体制で乗り切ってきた1年間でもありました。

企画事業部長 齋藤 秀美

